

【特別企画展】

追善の美術

亡き人を想ういとなみ

The Art of Mourning The Art of Honoring the Dead
2023年7月7日(金) — 8月13日(日)

休館日：毎週月曜日(ただし7月17日(祝)は開館し、翌18日(火)が休館) 開館時間：午前10時〜午後5時(入館は午後4時30分まで)

入館料：一般 630円 / 高校・大学生 420円 / 小学・中学生 無料 ※20名以上の団体は相当料金の2割引き引率で引率者1名無料 ※障がい者手帳をお持ちの方(ご同伴者1名2割引き)

大和文華館 奈良・学園前

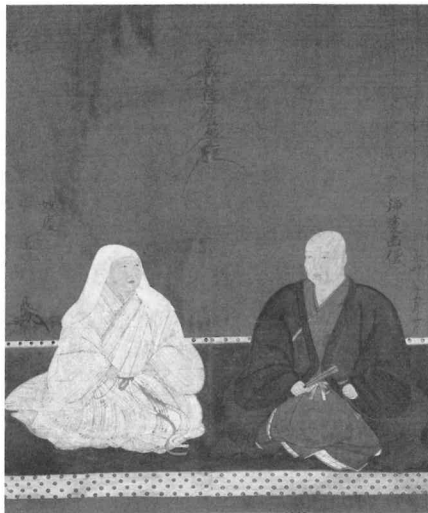
アクセス：近鉄・奈良線(学園前駅)下車 徒歩約7分
〒631-0034 奈良市学園南1-11-6 電話 0742-24510544

「止庵文化財 婦人坐像」(室町時代)、「大和文華館」(下伊勢郡)下膳字 桂部 鎌倉院 大和文華館蔵





重要文化財 融通念仏縁起絵巻 下巻(部分) 日本・室町時代 禅林寺蔵(会期中巻替あり)



京都市指定有形文化財 渡辺浄慶妙慶夫妻像
日本・室町時代 妙蓮寺蔵



重要美術品 青磁多嘴壺
中国・北宋時代 大和文華館蔵

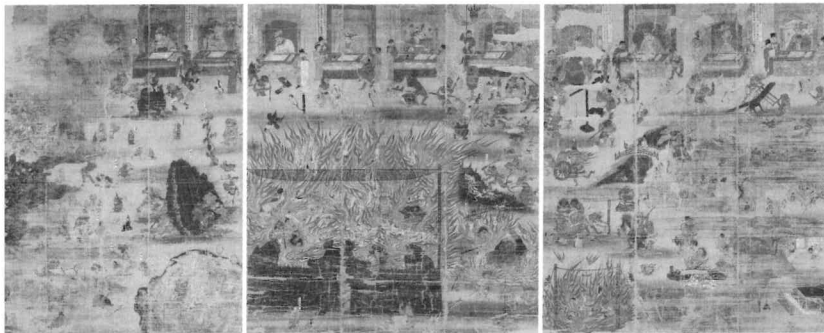
【特別企画展】
追善の美術
亡き人を想う、いとみなみ
The Art of Mourning — The Act of Honoring the Dead

亡くなった人を悼み、弔う気持ちは今も昔も変わりません。古くより墳墓には、装身具や、人物・動物を象った明器など様々な副葬品が死者のために埋葬されてきました。

仏教においては、追善供養のために仏事が営まれたほか、写経が行われ、仏像や仏画が制作されました。特に浄土思想の流行により、現世を生きる苦しみを自覚するとともに、死後に待ち受ける世界への関心が高まると、個々の信仰に基づいた多様な美術が生み出されるにいたります。一方で、こうした供養は、死者のためだけでなく、生きている者にとっても重要な意味を持つていました。他者の「死」をみつめることは、いずれ迎える自分自身の「死」と向き合う機会でもあったのです。

本展では、ひとつひとつの作品に込められた、亡き人への想いに耳を傾けながら、そのいとなみの様相をご紹介します。

The feelings of mourning and the desire for a memorial for the deceased remain the same today as they were in the ancient past. These pieces, as crystallizations born of such profound feelings, allow one to gaze out on the acts of those coping with the death of others and those contending with their own imminent death.



重要文化財 六道絵 日本・鎌倉時代 極楽寺蔵

特別講演 7月30日(日)午後2時・講堂

「記憶の図像学—亡き人のために、生きる者のために—」京都市立芸術大学客員研究員 加須屋 誠氏

日曜美術講座 7月23日(日)午後2時・講堂

「六道を巡る—極楽寺所蔵「六道絵」の世界—」当館学芸部係長 一本 崇之

列品解説 毎週土曜日 午後2時 当館学芸部による

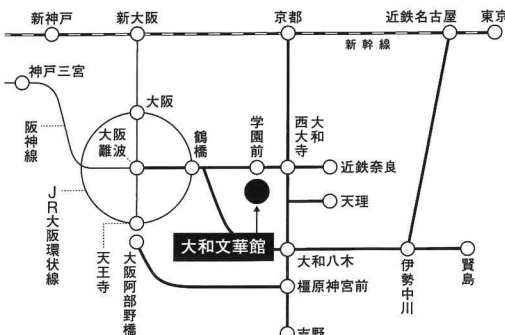
無料招待デー 7月27日(木)・28日(金)

夏休み学生(高校・大学生)無料招待デー

7~8月の土・日・祝日は学生証提示で入館無料



近鉄・奈良線(学園前駅)下車、南出口より徒歩約7分、無料駐車場あり



大和文華館

奈良・学園前

〒631-0034 奈良市学園南1-11-6
TEL (0742) 45-0544 FAX (0742) 49-2929
近鉄・奈良線(学園前駅)下車 徒歩約7分

大和文華館ホームページ
<https://www.kintetsu-g-hd.co.jp/culture/yamato/>



@yamatobunkakan